

さちひろ

天理教狭千廣分教会の広報紙

- 1 面・「天理教」その名の由来
- 2 面・こどもおちばがえり
- 3 面・おやさま逸話篇から
- 4 面・教会の動き・編集後記

発行：天理教狭千廣分教会

〒589-0021 大阪狭山市今熊1-1133 Tel.072-365-2571

E-mail:wat@sachihiro.com

url:http://sachihiro.com

編集兼発行人・山口 渡

「天理教」という名前はどこからきているのでしょうか。何に由来するのでしょうか。若者にこの問いをぶつけると、真剣な面持ちで、「それは天理（市）に生まれた宗教だからでしょ」と答えるものがあるとか。それほどまでに、天理市の名は全国にひろまっている証ではありまじうが、天理教があつて天理市という行政単位が生まれたことは言うまでもありません。

それではその「天理教」という名称はいつごろから、どのようにして使われるようになったのでしょうか。当然、おやさま（教祖）の時代から天理教はありました。しかし、当初から天理教と名乗っていたわけではありません。

自分たちが信じる宗教に名前をつける必要が生じて、つまり社会にその教えが広がって、集団として活動するようになって、「天理教」という名称が使われたようになったと考えられます。

実際、明治時代に天理教の教会公認運動が始められて、その関わりで、そうした名称が出てきます。具体的に言えば、明治13年「天輪王講社」設立を契機にして、対社会に何らかの意志表明をする必要が多々生じるようになります。

諸井慶徳（「原初天理教に於ける表明文書」（『復元』第四号所収））には、明治14年9月の「就御尋手続上申書」から「最初之由来」まで七つの文

書が掲載されています。しかしそこには「天理教」の名称は見えませんが。そして明治18年4月29日に「天理教会結成御願」を大阪府知事宛に提出され、ここにはじめて「天理教（会）」の名称を見出すことができます。

こうした文書によって、神名が、天（轉）輪王↓天理王と変化している点がよく問題になるのですが、教義上、原典（おふでさき・みかぐらうた・おさしづ）での用例から「天理王命」が本来のものであるということは間違いないと思います。

たとえば、おふでさきで、「天」の用例を調べますと、「たいしよく天」「てしよこの大じんく」など固有名詞、「からてんちく」「てんび火のあめ」など普通名詞、「あまくたり」のような動詞にもありますが、「てんのあたゑ」「天より」のように親神の居場所の超越性を空間的に表現して「天」と言われているものが多いようです。また、「理」の場合、「道理」「無理」「修理」はたくさんありますが、「理」は、「このよふはりいでせめたるせかいなり」なにかよろづを歌のりでせめ（一号21）のみです。「理」の意味はこのおうたに説かれています。「轉（転）」「輪」の名称ではこうした説明はつかないでしょう。おさしづで多用されている「天の理」も同様です。「天」は親神の在す場所、「理」はその働きの筋道です。

「天理教」その名の由来

教会の動き



※教会の場所は、左の地図の★マーク。市立公民館の裏・西側です。

- 朝づとめ…毎朝・6時30分
- 夕づとめ…毎夕・7時00分
- 春季大祭…1月21日午後1時30分
- 秋季大祭…10月21日午後1時30分
- 月次祭…毎月21日 午後1時30分
- 春・秋季霊祭…3月22日、9月22日 午後1時30分



教祖百二十年祭

こどもおちばがえり さちひろ隊募集中！

楽しい夏の「こどもおちばがえり」が、奈良県天理市の「おちば」で今年も催されます。

アスレチック、プール、ミラクル大冒険、華やかなパレードなど楽しい催しものでいっぱいです。そしてまた、世話にあたる元気で楽しいお兄さんお姉さんたちとふれあい、おもいっきり遊ぶことによって、子どもたちの心に楽しい思い出として、きつと残ることでしょう。

狭千廣分教会では、「さちひろ隊」として8月2日、3日の一泊二日の日程で実施します。たくさんの子どもの参加をお待ちしています。

記

日時 8月2日（水）、3日（木）

（1泊2日）

集合場所 8月2日 午前8時15分

（場所：狭千廣分教会）

解散時間 8月3日 午後5時頃

内容 おちば参拝、行事参加（ミ

ラクル大冒険・プール・劇等）

持ち物 ぼうし、水着、着替え、洗面具（風呂道具）

参加費 小・中学生 3,500円

大人 4,000円幼児（4歳以上）

2,500円

宿泊 中河詰所（0743-63-0153）

《編集後記》

▼まだ梅雨があけてない苦なのに、猛暑が続くきょうこのごろです。ひさびさの発行となりました。

▼今号の巻頭文は、「飛躍」紙に掲載した原稿をもとに加筆したものです。改めて「天理教」の由来を考えました。

▼2面は、こどもおちばがえりの案内をかねて「イガボンのおさそい日記」を掲載しています。http://kodomo.tenrikyo.jp/home.html（公式サイト）から拝領した画像です。

さちひろ 第12号

編集兼発行人・山口 渡

平成18年7月15日

大阪狭山市今熊1丁目1133番地

Tel. 072-365-2571

『稿本天理教教祖伝逸話篇』 29

二九 三つの宝

ある時、教祖は、飯降伊蔵に向かつて、

「伊蔵さん、掌を払ってごらん。」と、仰せられた。

伊蔵が、仰せ通りに掌を払げると、教祖は、粉を三粒持つて、

「これは朝起き、これは正直、これは働きやで。」

と、仰せられて、一粒ずつ、伊蔵の掌の上に載せ下されて、

「この三つを、しっかりと握って、失わんようにせにやいかんで。」

と、仰せられた。

【解説】

■この逸話篇の話、明治5年〜6年の話で、当時飯降伊蔵さんは40歳か41歳くらいです。今なら、40歳と言えはまだまだ「若い年齢」かも知れませんが、当時は人生50年と言っていた時代ですので、40は不惑の年齢（＊）

です。立派な大人です。そんな年の人に対して、この話をされた当時のことをよく考えねばなりません。

■モラトリアムな今日の若者に向かって論されるのならわかるが、不惑の大人になぜこんな話をされたのか。

飯降伊蔵は、中山家が貧のどん底の暮らしをされていたとき、ともに歩まれたその当時を知る数少ない人物です。飯降伊蔵は大工さんで、棟本で仕事をされてました。元治元年、妻のおさとさんが流産をされて、その後体調が悪かったのを教祖にたずねられました。それで入信されました。つとめ場所の普請、大和神社の一件の後、信仰し始める人が増えてきた時期だったが、この事件で遠のいてしまいます。伊蔵さんは当時、子供がなかったもので、つとめ場所のふしんの後、夫婦でおやしきに常駐されていたようです。しかし、慶応3年に長女よしゑさんが生まれます。棟本にもどって、大工仕事が終わってから、毎日おやしきに通われていました。朝起き、働きを実践さ



れていたわけです。教祖からこの話を聞かされるまでから、この教えを実行されていたわけです。

明治元年に長男・政治郎誕生。明治5年に次女まさゑさんが生まれますが、同じ年に長男が亡くなります。これにはおさとさん、かなりショックだったようです。そして2年後に教祖の予言通り、長男・政治郎さんが政甚として生まれ変わられました。

「朝起き、正直、働き」を真摯に実行されていた伊蔵夫妻にとって長男出直しは、心の痛め、信仰を揺らすものであったことでしょう。しかし、そこで心を倒していたのでは、これまで「朝起き、正直、働きで通った、尽くしたことが消えてしまいます。これまでも通り、揺るぎない信仰で「朝起き、正直、働き」を実践し、それが一粒万倍の実りをもたらす、楽しみとなることを、あらためて教えられたのがこの逸話篇のお話であるように思います。少年会員だけが対象の話ではなくて、実はもっと奥の深い話のように思えます。



天理の紹介

こどもおぢばがえり



親と子

障子に、三角の影がうつる。三角は嫌い、丸い影が好きだと言って、障子に幕をはっても、

三角の影は、けっして丸い蔭には変わらない。

しかし、影をうつすこちらの三角の物体を、丸い物体に返れば、丸い影になる。

よく考えれば、人間の親子関係もこれと同じこと。

「影は子供、物体は親」

子供を変えようと、苦勞するよりも、まず親自身が変われば、必ず子供が変わる。

いつも親の心を、子供はうつしている。

幸せを届ける言葉

高橋美津志「ちよっとひとこと」

（善本社刊）から